

1. 授業の実践記録

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫 (仮説1)

【児童が相手意識をもってコミュニケーション活動に取り組める工夫】

児童が主体的にコミュニケーションを図るためには、「相手のことをもっと知りたい」という思いをもつことが大切だと考えた。そこで、以下のことを実践し、そのような思いをもてるように働きかけた。本単元は、休日にしていることを紹介することがメインの活動となる。本単元の1時間目では、ALTとJTEのスマールトークを聞かせた。その際、児童に質問を投げかけたり、トークの内容を確認したりして全員が本単元の学習に安心して取り組めるようにした。そのような活動を通して、一緒に単元のゴール「互いのことを知るために休日にしていることを尋ねたり、伝えたりすること」を設定し、児童が自分事として課題に取り組んでいけるように働きかけた。

また、ALTとJTEの休日の過ごし方を示した掲示物を示し、単元のゴールを児童がイメージすることでコミュニケーション活動に主体的に取り組むことを目指した。



(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫 (仮説2)

【児童の生活につながるスマールトークの工夫】

児童の日常生活の場面から、自然な会話が生まれることを想定したスマールトークを展開できるように工夫した。(※参照) また、「My Day」を示しながらスマールトーク内容の確認を行うことで情報が整理され、イラスト等で内容が理解しやすくなるようにした。

My day

I usually get up at 6:00.

I sometimes take out the garbage.

I usually watch animation on TV.

I usually eat dinner at 7:00.

I always eat ice cream after dinner.

※スマールトーク内容 1部抜粋

(担任:T 児童:C ALT:A)

T: Everyone, How are you?

C: I' m (sleepy/tired/happy.)

T: I see. I' m very tired.

But, today is Friday.

The weekend starts tomorrow.

A: You look happy! What do you usually do on the weekends?

T: I usually get up at 6:00.

I usually watch animation on TV.

A: What do you watch?

T: I watch SLAM DUNK. It' s exciting!

A: I never watch SLAM DUNK.

T: Really? SLAM DUNK is famous animation.

A: I want to try it. What do you do in the evening?

T: I usually eat dinner at 7:00.

I always eat ice cream after dinner.

A: Always!? Really? What flavor do you like?

T: I like chocolate mint.

A: Me too.

T: Everyone,How about you? What do you usually do on the weekends??



自分の休日について伝える場面では、「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」を意識するように伝え、それを中間振り返りでできているか問い掛けたり、モデルとなる児童を紹介したりするなどして、よりよい態度で言語活動ができることを目指した。また、リアクションワードをいくつか紹介したり、質問を促したりすることで、自然なコミュニケーションを図ることができるのではないかと考えた。

(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

【単語や文型に慣れ親しみ、自信をもって伝え合える活動の工夫】

言語活動を十分に行うためには、その活動で使う単語を習得したり、文型を理解したりして、自信をもって発音できることが必要だと考える。そのような表現を取り入れながら、ゲーム的な要素のある活動やペアやグループでの練習の機会を多く設定することで、英語に苦手意識をもつ児童も楽しみながら学習し、自信をもって発音できることを目指した。



2. 指導の結果と考察 ○成果 ●課題

(1) 英語を用いて主体的にコミュニケーション活動に取り組むための工夫（仮説1）

○休日の過ごし方を尋ねたり伝えたりするという、最終ゴールを設定したことによって、児童の伝えたい気持ちや相手のことをもっと知りたいという気持ちを高めることができた。また、休日の過ごし方については意外と知らないことが多く、振り返りの記述からクラスメイトの新たな一面を知ることができた児童も多かった。主体的にコミュニケーション活動に取り組む上で、興味をもって取り組めるゴール設定であったと考える。

○表情や視線など相手に伝わる態度についても考え、「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」を意識しながら発表を工夫することができた。

●相手のことをもっと知るために休日の過ごし方を尋ねる流れにより、教科書で扱われているいくつかの表現はそぐわなかったため、それらの表現は知識としてのインプットのみとし、条件を調整するなど、多少変則的な扱いとなった。教科書の設定を変更することにより、表現が合わない英単語が出てくることが分かり、その都度どう扱うか検討することが必要になってくる。



(2) 相手のことを考えて、自分の思いや考えを豊かに表現するための工夫（仮説2）

- スモールトークの内容をしっかりと理解できたことで、それを頼りにしながら自分の伝えたいことや言い方を理解し、自信をもって表現することができた。
- 中間振り返りで「コミュニケーションを楽しむために大切なこと」の確認や、言えなかったり難しかったりした表現の確認をすることで、より豊かな文章表現や反応をすることができた。
- 単元のゴールである「相手のことを知る」ということをしっかりと意識し、相手の休日の過ごし方について自分から質問をすることができた児童が多かった。



(3) 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感するための工夫（仮説3）

- ゲーム的な要素のある活動を取り入れることで、単調になりがちな単語や文型を楽しみながら身に付けることができた。
- 多くの人と関わろうと積極的に話しかけて動き回る児童がいる一方で、自ら活動が進まない児童もあり教師が促す場面があった。今回のゲームという要素が、その児童にとってあまり興味関心をひくものでなかったのか、またはゲームに参加するまでの適応力が不足していたのかなど、活動が停滞した原因を検討し、より多くの児童が取り組みやすい工夫を模索していきたい。

